大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	F127310108143	設置等組織名	情報学部
大学名	梅花女子大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	大阪	事業計画名	梅花女子大学　デジタル人材育成のための新学部設置計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和7年度	1-① 令和7年7月～ 新学部立ち上げのための検討会議の開催 1-② 令和7年8月～ 学生確保の見通しを調査 1-③ 令和7年8月～ 社会のニーズの調査及び連携先企業の開拓 1-④ 令和7年8月～ 情報発信・広報活動の準備	1-① 令和7年7月～ 新学部立ち上げのための検討会議の開催 1-② 令和7年8月～ 学生確保の見通しを調査 1-③ 令和7年8月～ 社会のニーズの調査及び連携先企業の開拓 1-④ 令和7年8月～ 情報発信・広報活動の準備	令和7年度自己評価：【２】計画を十分には実施していない。 令和8年3月25日付で情報学部開設予定年度が令和9年度から令和10年度への延期が認められたが、情報発信・広報活動に十分な時間と人員確保が困難なため、1-④項目については十分な活動が行えなかった。令和8年度には広報セクションと連携を密に進めていきたい。
令和8年度	1-① 令和7年7月～ 新学部立ち上げのための検討会議の開催 1-② 令和7年8月～ 学生確保の見通しを調査 1-③ 令和7年8月～ 社会のニーズの調査及び連携先企業の開拓 1-④ 令和8年8月～ 情報発信・広報活動の準備	1-① 令和7年7月～ 新学部立ち上げのための検討会議の開催 1-② 令和7年8月～ 学生確保の見通しを調査 1-③ 令和7年8月～ 社会のニーズの調査及び連携先企業の開拓 1-④ 令和7年8月～ 情報発信・広報活動の準備	令和8年度自己評価：【２】計画を十分には実施していない。 令和8年3月25日付で情報学部開設予定年度が令和9年度から令和10年度への延期したため、現時点では計画の進行は足踏み状態である。7月より本格的に1-①新学部立ち上げのための検討会議を再開し、調査会社の選定、連携先企業のリストアップ、広報活動計画の策定をやり直す予定である。
令和9年度			令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価：リストから選択してください。
令和16年度			令和16年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出			
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	梅花女子大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。☐

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

☐ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	梅花女子大学

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.本学には看護保健学部を除く学科のすべての学生が卒業までに1度は産学連携に携わる共通科目「問題発見・解決セミナー」があり、協力企業から課題を頂き、その解決のための提案を行っており、イベントスペースの活用、商品企画・デザインによる共同開発など多くの取り組みがある（電気事業連合会・Johsin電気・大阪トヨタなどおよそ300件以上の実績）。新学部でもこの取り組みを行っていく。 b.フェーズ１実施期間中での検討となるが、新学科の強みとなるであろうソフト的なデザイン・映像制作・コンテンツ配信技術を活用し、ハード面に強い他大学と連携して社会問題の解決をめざす取り組みをプロジェクト化した授業や、ゼミ単位の活動として実施し、その結果を社会に発信してくことを検討している。	a.学生が産学連携に携わる共通科目「問題発見・解決セミナー」を継続している。協力企業から課題を頂き、その解決のための提案を行っており、イベントスペース（大阪万博会場など）の活用、店舗ブランディング、商品企画など多くの取り組みを行った（ABCライフィズ株式会社・株式会社ドーム・株式会社ボーネルンド・ホライズンフューチャーズ有限会社など2025年度39件実施）。新学部でもこの取り組みを継続していく。 b.令和8年3月25日付で情報学部開設予定年度が令和9年度から令和10年度への延期となったため、具体的な協力関係を結ぶに至っていない。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
- ■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- □ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- □ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.フェーズ１期間中の検討となるが、現在の本学の一般入試では、『国語』（現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く））、『外国語』（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ（リスニングを除く））、『数学』（数学Ⅰ・A）、『理科』（生物基礎）を課している。加えて『情報』（情報Ⅰ）を試験科目に加える検討を行う。 b.現在も行っている近畿圏の女子高校での説明会、入試広報部職員による進路指導部への訪問、指定校推薦入試の枠の設置、協定校との連携の強化などを実施する計画である。またフェーズ１で行うアンケート調査では、女子生徒に興味関心をもってもらえるようなリーフレットを作成・配布し、デジタルエンターテインメント分野へ踏み出すきっかけを与えられるよう工夫を凝らす。 c.地域の高校および教育協定校との連携は既に行われており、2024年度には、33回の出前授業等の実績がある。加えて本学園の梅花高等学校とは高大連携授業として、複数の学科の教員が入れ替わりながら年平均8講座程度（通年週1回50分×2コマ・25回程度）を20年以上継続してきた。これらを引き続き発展的に継続していく。	a.2026年度の一般入試では、『国語』（現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く））、『外国語』（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ（リスニングを除く））、『数学』（数学Ⅰ・A）、『理科』（生物）に加え、舞台芸術表現学科で面接を課すようにした。また2027年度一般入試（I期）では全学科対象に『社会』（日本史）を追加することを決定した。加えて2028年度以降『情報』（情報Ⅰ）を試験科目に加える検討を行う。 b.現在も行っている近畿圏の女子高校（梅花高校・平安女学院高校・百合学院など）での説明会、入試広報部職員による進路指導部への訪問、指定校推薦入試の枠の設置、協定校（宣真高校・育英西高校・進徳女子高校・神戸松蔭高校（以上女子高校）・京都西山高校・京都暁星高校・日星高校・箕面東高校・奈良文化高校・上宮高校・四条畷学園高校・京都翔英高校・奈良育英高校）との連携の強化などを継続して実施している。2026度のフェーズ１で行うアンケート調査では、女子生徒に興味関心をもってもらえるようなリーフレットを作成・配布し、デジタルエンターテインメント分野へ踏み出すきっかけを与えられるよう工夫を凝らす。 c.地域の高校および教育協定校との連携として、2025年度には、川西明峰高校4回、クラーク記念国際高校１回の出前授業等の実績がある。加えて本学園の梅花高等学校とは高大連携授業として、複数の学科の教員が入れ替わりながら年平均8講座程度（通年週1回50分×2コマ・25回程度）を現在も継続して実施している。	

大学名	梅花女子大学

１.本事業対象となる学部等の状況

<合計>

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	梅花女子大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	情報学部デジタルエンターテインメント学科（工学関係・美術関係）

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定																		
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

1.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

大学名	梅花女子大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	495	495																	
		入学者数	人	366	366																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	495	495																	
		入学者数(B)	人	366	366																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.74	0.74																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,980	1,980																	
		編入学定員	人	若干名	若干名																	
		在籍者数(D)	人	1,673	1,546																	
		編入学者数	人	4	0																	

大学名	梅花女子大学

収容定員充足率（D/C）	倍	0.84	0.78																

４.外部資金の状況（全学）

年度 / 改組状況		R1年度 申請-5年	R2年度 申請-4年	R3年度 申請-3年	R4年度 申請-2年	R5年度 申請-1年	R6年度 申請	R7年度 選定	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	14,667	36,169	28,282	28,144	22,528	29,871	48,678												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	15,538
本事業による助成金の額(F)	千円	62,255
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	17,095

特記事項